

第26回CIS研究所パートナー会 議事録

日時 2013年5月26日(日) 13時～17時

場所 CIS会議室

サロン 講師 生駒 篤一 様

テーマ 養蜂について



会議風景

1) サロン 講師 生駒 篤一 様

本日のテーマは、ミツバチの生態。

- ・ミツバチ社会
- ・ミツバチの会話
- ・ミツバチの巣、六角形の謎
- ・なぜミツバチは刺すのか？
- ・ミツバチの生産物
- ・無限の能力と可能性を秘めたミツバチ

ミツバチ社会:

ミツバチの社会は、人間以上に、役割分担が非常にはっきりしていて、一匹の女王蜂と沢山の働き蜂、少数の雄蜂で構成され、働き蜂はなんと雌だという。しかし女王蜂と働き蜂は同じ雌でも、身体の大きさ、生理的にも全く違う。この違いには食料に起因する。ミツバチの社会では雌として産み付けられた卵は、女王蜂または働き蜂のいずれにもなる可能性があるが、おのおの食事が全く異なる。

ミツバチの会話

人間は一人だけでは生きて行くことが出来ないが、ミツバチの社会では人間以上にお互いの協力が無いと成り立たない。それはミツバチの生命維持において最重要事項は蜜を集めるということである。ツバチの巣には女王蜂の他に沢山のミツバチの赤ちゃんが餌を待っているわけだが、当然一匹の働き蜂(以下ここでは収穫蜂とする)では賄いきれない。そこで大勢の収穫蜂が協力して蜂の巣に良質の蜜を運び込む。このとき蜜のありかは働き収穫蜂のそれぞれが自分自身で見つけるのではなく、もし一匹が蜜源を見つけると他の蜂に伝えなければならない。「ここに良質の蜜があるぞ!」と。人間なら大声を出せば伝えることが出来ます。ミツバチの場合はどうでしょう?…。**「ダンス」という方法で伝えている。**(途中省略)

養蜂について:

日本みつばち(野生みつばち)の養蜂について紹介。

この養蜂は趣味の養蜂にはぴったりだ養蜂の専用機材は ほとんど必要ないし、ほぼ一年ほったらかしででき、薬品一切使用しない ので天然のとびきりおいしい完全ピュアなハチミツが取れる。日本みつばちの集めるハチミツは、一般市販されているものとは全然 違い、格段に美味である。

日本みつばちの養蜂には、野山で自然に生息する彼らの生態を忖度してあげる事が一番重要である。実は植物を含めて生き物を育てるにはそれが一番重要。

日本みつばちの養蜂とは「野生の虫を放し飼いする」ことだと認識して 欲しい。

野生みつばちの確保:

野生みつばちがいる所では結構入る。蜂にとって居心地よい巣箱が条件の良い場所に置かれていると、かなり引っ越して来てる。

採蜜と養蜂:

夏の終わりから初秋にかけての頃に採蜜する。この作業はちょっと難しい。基本的には巣箱からはちみつが詰まった巣板を取り出し、それをバケツに集めて棒でこなごなにつぶし、ろ過すると黄

金色のハチミツが取れる。その巣板を取り出す方法として2通りのやり方がある。1つは採蜜の前に巣箱内の蜂を全部殺してしまうやり方。はち殺し用の煙幕花火を使って、巣箱内の蜂を殺してしまう。それからゆっくり巣板を取り出す。もう1つのやり方は、はちが活着している状態で、巣板を1枚ずつ切り出す。この方法だと採蜜後も蜂群を来年に向けて温存できる。

知人の養蜂家の写真集:



外敵からミツバチを守るために入出口の隙間は7ミリとのこと。

西洋ミツバチの巣箱



西洋ミツバチの巣箱

生駒氏自身、日本ミツバチの養蜂を試そうと巣箱を試作し設置したとのこと。

来年への期待：

生駒氏手製の(?)蜂蜜の賞味できることを期待したい。

(完)

2) 自由討議。

- ・ロボットでミツバチを作ろうとしている研究グループがあるという。
- ・新しく作った、巣箱にミツバチを集めるために、既存の巣箱近くに置くのが効果的。
- ・世界的にミツバチが減少している。
授粉用のミツバチ減少にともない果実の育成困難になっている。
- ・音について、LP(アナログ)は山本に寄贈してください。
- ・真空管アンプ、30Kgの重さになる。
次回製作するときには、片チャンネルずつ2台作るのが良い。
- ・ **** 省略 ****

3) 次回開催日の予定

6月23日(日) 決定。

以上、宜しくお願いします。